

バレイショの出芽促進，そうか病軽減のための効果的なかん水方法

植付時のかん水で出芽が安定的に早まり，植付2か月後までのかん水でそうか病が軽減できるため，可販収量が増加する。

背景・目的

- 奄美地域のバレイショは、気象条件等により出芽，肥大が大きく左右され，また，そうか病の発生が多いなど生産が不安定。
- 大規模畑地かんがい設備の整備が進み，畑かん水を効果的・効率的に活用したバレイショ栽培技術の確立が望まれている。
- バレイショ栽培における効果的・効率的な水利用技術を確立する。

成果の内容

・バレイショの出芽は，植付直後にかん水を行うと安定的に植付後2週間以内に出芽

出芽は植付後18日～30日と不安定

15mm以上の降雨後からは約2週間で安定

年度	かん水	植付期	出芽期	出芽まで日数	15mm以上降雨日	降水量(mm)	降雨から出芽日数
H24	無	11月7日	11月27日	20	11月11日	37.5	16
H25	無	11月8日	12月8日	30	11月25日	34.5	13
H26	無	11月5日	11月23日	18	11月9日	31.5	14
H27	無	11月5日	11月25日	20	11月14日	17.5	11
H28	無	11月8日	11月30日	22	11月20日	49.5	10
H26	有	11月5日	11月18日	13	11月5日	(30.0)	13
H27	有	11月5日	11月18日	13	11月6日	(30.0)	12
H28	有	11月8日	11月21日	13	11月8日	(30.0)	13

注) かん水の15mm以上降雨日はかん水日。 品種：ニシユタカ（長崎産冷蔵種子）

植付直後にかん水すると安定して2週間以内に出芽

・植付2か月後までかん水を行い土壌水分を湿潤に保つとそうか病発病率，発病度が減少

		総計			内そうか病		発病塊莖率(%)	発病度
		個数(個/a)	収量(kg/a)	1個重(g)	個数(個/a)	収量(kg/a)		
土壌	乾燥区	1,305	166	128	1,066	146	82.2	45.5
水分	湿潤区	1,924	244	128	536	71	28.3	8.3

注) 植付：平成28年11月26日，収穫：平成29年3月9日，品種：ニシユタカ（北海道産無冷種子）

植付2か月後まで湿潤区はかん水により概ねpF値2.0前後で，乾燥区は雨よけ栽培により概ねpF値2.3以上で推移

期待される効果

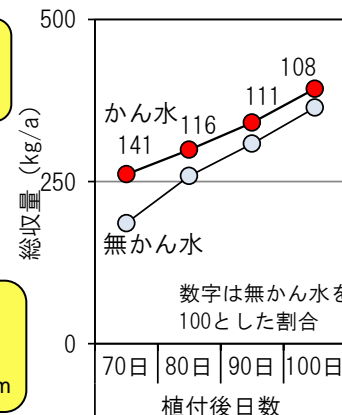
バレイショ生産の安定と農家の所得向上につながる。

鹿児島県農業開発総合センター徳之島支場園芸土壌研究室



発根はなく，芽の伸びは1～2cm

発根が多数あり，芽の伸びは7～8cm



植付9日後の萌芽，発根状況

出芽が安定的に早まることで計画的な出荷が可能。収量1割増収。



そうか病軽減により可販収量が増加

普及対象・範囲

奄美地域畑かん整備地区バレイショ生産者